



⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・データ駆動型社会、IoT、ビッグデータ、生成AI「情報リテラシー」 ・AI、生成AI「データリテラシー」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-6 ・大規模言語モデル「情報リテラシー」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー)「情報リテラシー」 ・AI最新技術の活用例「データリテラシー」 1-2 ・人の行動ログデータ「データリテラシー」 ・オープンデータ(e-Stat)の活用「ビジネスソフト活用」 ・仮説検証「データリテラシー」「ビジネスソフト活用」 1-3 ・サービス「データリテラシー」 ・判断支援「データリテラシー」 ・要約、生成AIの応用「情報リテラシー」
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化「データリテラシー」「情報リテラシー」「ビジネスソフト活用」 ・データ解析、生成AIの活用「情報リテラシー」 1-5 ・課題解決に向けた提案「情報リテラシー」「データリテラシー」 ・データサイエンスのサイクル(データの取得)「ビジネスソフト活用」 ・サービス、インフラ、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「データリテラシー」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 ・データガバナンス、個人情報保護「情報リテラシー」 ・プライバシー保護「データリテラシー」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「情報リテラシー」 ・データバイアス「データリテラシー」 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データリテラシー」 3-2 ・サイバーセキュリティ「情報リテラシー」 ・匿名加工情報「情報リテラシー」 ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報リテラシー」
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 ・データの種類(量的変数、質的変数)「データリテラシー」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データリテラシー」 ・データのばらつき(分散、標準偏差)、外れ値「データリテラシー」 ・相関係数行列、散布図行列「ビジネスソフト活用」 2-2 ・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、箱ひげ図)「データリテラシー」「情報リテラシー」「ビジネスソフト活用」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報リテラシー」 2-3 ・データの取得「ビジネスソフト活用」 ・データの集計(和、平均)「データリテラシー」 ・データの並び替え、ランキング「データリテラシー」 ・データ解析ツール(スプレッドシート)「ビジネスソフト活用」「情報リテラシー」 ・表形式のデータ(csv)「データリテラシー」「情報リテラシー」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIの発達で社会や人々の生活がどのように変化しているかを理解する</li> <li>・社会や人々の生活においてデータがどのように活用されているか理解する</li> <li>・様々な業界におけるデータの活用事例を知る</li> <li>・セキュリティや倫理、コンプライアンスなどを理解する</li> <li>・データの活用を行うための基本的なスキルを身に付ける</li> </ul>
--

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
短期大学部・経営学科	71	59	100	100	71	63											71	71%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	71	59	100	100	71	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71	71%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① 全学の教員数

(常勤)	10	人
(非常勤)	26	人

## ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

## ③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	中村 雅典
(役職名)	短期大学部 経営学科長

## ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	カリキュラム検討委員会・短大教務委員会
------	---------------------

## ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	カリキュラム検討委員会細則・短大教務委員会細則
------	-------------------------

## ⑥ 体制の目的

カリキュラム検討委員会については、本プログラムのカリキュラム内容の精査や教育の質向上の観点からの再検証を協議・実行するための体制と位置づける。  
短大教務委員会については、オリエンテーションなどの履修者数向上のための仕組みづくりや該当科目の認定単位を踏まえたプログラム履修認定の審査を行うこととする。

## ⑦ 具体的な構成員

**【カリキュラム検討委員会】**  
 ①中村雅典(経営学科長) ②森川幸紀雄(経営学科 教授)  
 ③上條隆(経営学科 特任教授) ④森本圭祐(法人本部長・学長補佐)  
 ⑤遠藤康生(教務課長) ⑥富所弘美(キャリアサポート課長)  
 ⑦迫田千嘉(社会連携課 係長) ⑧間瀬柚規(学生課 係員)

**【短大教務委員会】**  
 ①中村雅典(経営学科長) ②森川幸紀雄(経営学科 教授)  
 ③遠藤康生(教務課長) ④川又彩夏(教務課 主任)  
 ⑤渡邊司(教務課 係員)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	71%
令和8年度予定	80%
令和9年度予定	85%
令和10年度予定	90%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

数理・データサイエンス・AIに関する全学的な教育を実施することを目的に、令和6年度入学者より、現在のカリキュラムに刷新し、令和7年度入学者より本教育プログラムを全学必修として展開している。また、プログラムを構成する全3科目については、卒業要件上も必修科目として位置付けていることから、多くの履修者が受講できる環境を整備している。

また、令和7年度のプログラム修了認定対象者(修了要件充足者)については、令和7年度中に「修了証」の発行を行うこととする。当該修了証の発行により、就職活動をはじめ、第三者に対して当該プログラム修了の事実とリテラシーレベルとしての知識・スキルを明示することが可能となる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムを構成する授業科目全てを全学開講・必修科目としており、在籍者全員が受講可能な体制を敷いている。

また、プログラムを構成する授業科目全てを修得すると「修了証」が発行される旨をガイダンス・オリエンテーションや学内Webポータルサイトを通じて、学生に周知を行い、受講促進を行っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

プログラムの概要・特徴や修得できる能力・スキルについて、対象学生全体に向けた「履修ガイダンス」や「学内Webポータルサイト」等で周知することで、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。

また、入学前の段階で実施する「スクーリング & 交流会」及び「新入生オリエンテーション」内でも、当該プログラムに関する各種案内を行い、当該プログラムの有効性等について周知を行っている。

その他、シラバスでも当該プログラム対象科目であることを明示して履修の便宜を図っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

プログラムにおける履修サポートについては、教務担当教職員にて、定期的に履修相談に応じられる体制を整備している。また、プログラム修得におけるサポートとしては対象科目の教員が履修者の各種相談に応じられる体制も整備している。その他、授業に必要なパソコンやタブレット貸与も無償で実施している他、学内のWi-Fiポイントの増設やパソコン教室を設けて、学修環境の充実に努めている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外関係なく、授業担当教員へ質問できる学内専用の「教育用SNSシステム(Melly)」を使用し、履修者からの質問や問い合わせに適宜対応を行っている。  
また、「オフィスアワー制度」を導入していることから、随時質問を受けられる体制を整備している。  
その他、学修全般の相談について、学生生活・学習支援センターの教職員が対面及び遠隔(Zoom)にて面談に応じている。

## 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 

カリキュラム検討委員会・短大教務委員会
---------------------

(責任者名)	中村 雅典
(役職名)	短期大学部 経営学科長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学では、全学的な数理・データサイエンス・AI教育の普及を目指し、基礎的なリテラシーレベルの「AIデータサイエンスプログラム」(※今回の申請対象プログラム)と、より発展的な応用基礎レベルの「AIデータサイエンスプラスプログラム」の2段階の教育プログラムを提供している。AIデータサイエンスプログラムに関しては、1年生全員を対象とした必修3科目(合計3単位)で構成されており、令和7年度の各科目における履修・修得状況は、データリテラシー(1単位):履修者71名、修得者69名、修得率97.18%、情報リテラシー(1単位):履修者71名、修得者69名、修得率97.18%、ビジネスソフト活用(1単位):履修者71名、修得者64名、修得率90.14%であった。なお、リテラシーレベルの「AI・データサイエンスプログラム」全体の修得率は88.73%と概ね9割の学生が修得することができた。</p>
学修成果	<p>AI・データサイエンスプログラムは、1年生全員が履修する必修科目群で構成されている。厳格な成績評価のもと、修得率が概ね9割という高い水準を達成したことは、本学が定めるリテラシーレベルの能力を、多くの学生が基準を満たして着実に身につけたことを示している。これは、全学的なAI・データサイエンス教育の基盤が確立され、その質が保証されているものと判断している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	<p>「AI・データサイエンス」関連科目に該当する3科目(情報リテラシー、ビジネスソフト活用、データリテラシー)の令和7年度授業評価アンケートより、理解度及び学修成果について分析する。アンケート項目の「到達目標を達成(理解)できた」との質問に対して、「情報リテラシー」では、5: そう思う (35.0%)、4: どちらかといえばそう思う (47.4%)、3: どちらでもない (12.3%)、2: どちらかといえばそう思わない (5.3%)、1: そう思わない (0%)となり、82.4%の履修者が授業内容を理解し、学修目標達成している。また「ビジネスソフト活用」は、5 (28.8%)、4 (51.9%)、3 (13.5%)、2 (5.8%)、1 (0%)と80.7%が授業内容を理解し学修目標達成している。さらに、「データリテラシー」では、5 (36.2%)、4 (48.3%)、3 (10.3%)、2 (5.2%)、1 (0%)と84.5%が授業内容を理解し学修目標達成している状況である(数値は全て小数点第2位四捨五入)。なお、2割弱程度の理解不足の受講者については、授業内外で質問を受けられる体制にしており、理解度向上に努めている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	<p>受講者の振り返りや今後の履修における参考になるよう、本学ポータルサイトにて、本プログラムを構成している科目の授業アンケート結果を学生が閲覧できるようにしている。また後輩学生達や他学生への推奨については、入学前のスクーリングや交流会を通じて、先輩学生である2年生が新生へ、本プログラムの大切さ及び科目の重要性などについて周知していく予定である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学では、リテラシーレベルを1年生71名全員が履修する必修科目としており、「全学生にAI・データサイエンスの基礎的素養を身につけさせる」という計画は達成しており、全学的な教育基盤は確立されたと判断している。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和7年度の入学生より正式導入されていることから、まだ卒業者は出ていない状況である。但し、経営学科「情報デザインフィールド」選択者においては、データサイエンスの知識を活かせる職種を希望する学生も少なくない。そこで、当該プログラムを修得したことがデータサイエンスやAIに関する基礎的知識とスキルを身に付けているひとつの指標として企業へのアピール材料となり、Society5.0社会のビジネス現場において、学生が活躍していくことが期待される。なお、プログラム修了者が卒業後に、実社会でどのように活躍しているか、就職先の企業でどのように評価されているか、については「企業向けアンケート調査」を取り、検証していく予定。</p> <p>令和7年3月18日に開催された外部評価委員会において、産業界の委員から、主に大学で計画されている情報・IT分野に対し、地域の現状と将来の技術トレンドを踏まえた貴重な意見が多数寄せられた。これらの意見は、大学のみならず、同一キャンパスで情報デザイン分野の教育を行う本短期大学部にとっても、教育内容を改善する上で極めて重要な指針となるものである。特に、地域における深刻な情報人材不足の解消という課題は、本学園全体で取り組むべきテーマである。また、ChatGPTに代表される最新技術トレンドを踏まえ、文系学生も含む多様な人材が活躍する可能性が示されたことは、デザイン思考を重視する本学の情報デザインフィールドにおいても重要な視点となる。産業界が求める「市場ニーズに即したカリキュラム」や「企業との強固な連携」といった要望に応えるため、短期大学部においてもこれらの外部からの視点を真摯に受け止め、大学と連携しながら、社会の期待に応える人材育成に努めていく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「データリテラシー」では学生が実際に利用する上信電鉄の過去5年分の駅別輸送人員データを用いた分析演習を実施し、コロナ前後の変化など、身近な路線の見えていなかった特徴をデータから発見する気づきの体験を通じて、「見える化」の重要性、学ぶ楽しさを体感している。「情報リテラシー」では学内コンビニのPOSレジデータを利用し、ChatGPT等の生成AIを活用したグループプロジェクト形式のデータ分析演習を行い、学生自身が日常的に利用する店舗の購買傾向を分析し、協働学修とプレゼンテーションを通じて、学び合いの楽しさを体得している。「ビジネスソフト活用」ではe-Statから学生自身が仮説を立て検証する主体的な学修を通じて、データドリブンな意思決定の重要性を学修している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生に対して「授業評価アンケート」を各学期末に実施している。教育プログラムの3科目全てにおいて授業アンケートを行い、学生の満足度、授業の分かりやすさ、改善点などの把握に努めている。科目担当者が点検・評価を行うことで、授業内容・水準が学生に適切であるか検証し、教育の質向上に向けた改善を図っている。また、生成AIの急速な発展を踏まえ、令和7年度シラバスにおいてChatGPTやClaude等の最新の生成AIを活用した演習を拡充し、ハルシネーションや偽情報拡散などAI特有の倫理的課題についても学修内容に組み込むなど、社会の変化や技術の発展に対応した教育内容の継続的な見直しを行っている。</p>

【令和7（2025）年度】

講義科目名称： データリテラシー

授業コード： J12601 J12602

科目区分： [基礎教育科目]ビジネス／情報

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4半期	1年	1	必修
担当教員			
降旗 光太郎			
G (現代ビジネス学科) / J (経営学科)	L (基礎科目)	IF (情報)	103 (基礎・入門科目)
添付ファイル			

調査項目	<p>①DPに関連するジェネリックスキルについて（別紙「スキル別科目担当表」を参照いただき、該当するもの1つ（旧カリは2つ）にチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 主体性</li> <li><input type="checkbox"/> 思考力</li> <li><input type="checkbox"/> 発信力</li> <li><input type="checkbox"/> 学び続ける力【旧カリ：生涯学習力】</li> <li><input type="checkbox"/> 多様性【旧カリ：グローバルな視野】</li> <li><input type="checkbox"/> 【旧カリ：創造的思考力】</li> <li><input type="checkbox"/> 課題発見力【旧カリ：課題解決力】</li> <li><input type="checkbox"/> 協働力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> デジタルリテラシー</li> </ul> <p>②アクティブラーニングについて（該当するものがあれば、チェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL</li> <li><input type="checkbox"/> フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> グループディスカッション／ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 反転授業</li> </ul>
------	---

授業のねらい（概要）	<p>本講義の目的は、数理的な思考を基盤として、現代社会における「データドリブン」な意思決定の重要性を理解し、基本的なデータ分析スキルを習得することである。具体的には、データの収集、整理、可視化、分析、解釈を学び、ビジネスや社会課題の解決に活用する能力を育成する。また、データ活用の過程で倫理的配慮（プライバシー保護、バイアスの認識、正確性の保持）の重要性についても理解を深める。本講義では、本学が協定を結んでいる企業の実データを使用し、実践的な課題解決に取り組む演習を行う。</p>
------------	--

授業計画	<p>第1回 オリエンテーションとデータドリブン社会の変化と概要 授業の進め方を説明し、数理的思考・データ解析の定義と重要性を学ぶ。さらに、データ解析が現代社会やビジネスに与える影響について、具体例（例：商品推薦システム、医療診断）を用いて説明する。加えて、データ・AI利活用の最新動向（生成AI、予測分析等）についても触れる。演習を通じて、データ解析の意義を体感する。</p> <p>予習（120分）：授業のシラバスを読み、到達目標、教科書、評価方法及び評価基準、注意事項等を理解しておく 復習（120分）：授業で学んだ数理的思考とデータ解析の定義をまとめ、身の回りの例でどのように活かせるかを考える</p> <p>第2回 データ分析の基礎知識 ① csv形式などの表形式データを用いて、データの種類（量的変数、質的変数）、データの整理、データの代表値について学ぶ。</p> <p>予習（120分）：データの種類（量的変数、質的変数）、データの整理方法と代表値（平均、中央値、最頻値）に関するテキストを読む 復習（120分）：授業で扱ったデータの代表値を自分で計算し、その意味と重要性をレポート形式でまとめる</p> <p>第3回 データ分析の基礎知識 ② データの散らばりや外れ値、四分位数について学ぶ。</p> <p>予習（120分）：データの散らばりと四分位数のテキストを読む 復習（120分）：自分で集めたデータセットを用いて四分位数を計算し、データの散らばり具合を分析する</p> <p>第4回 データ分析の基礎知識 ③ 分散と標準偏差について学ぶ。</p> <p>予習（120分）：分散と標準偏差についてテキストを読む 復習（120分）：授業で学んだ分散と標準偏差の計算方法を使って、実際のデータセットに適用し分析の結果をまとめる</p> <p>第5回 データ分析の基礎知識 ④ 2つの変量間の関係について学ぶ。</p> <p>予習（120分）：2つの変量間の関係（相関）に関するテキストを読む。「相関と因果」の区別を理解する 復習（120分）：実際のデータを用いて相関係数を計算し、2変量間の関係性について考察するレポートを作成する</p>
------	--

	<p>第6回 データ分析の基礎知識 ⑤          仮説検定の基本的な考え方とその社会的意義について学ぶ。上信電鉄の駅別輸送人員データを活用し、仮説を立てて検証する演習を行う。演習では、データのバイアスや解釈における倫理的配慮についても議論し、適切な分析のあり方を理解する。</p> <p>予習（120分）：仮説検定の基本原理について説明したテキストを読み、理解を深める。提供されたデータセットを確認し、授業内での分析に取り組めるよう準備を行う          復習（120分）：「上信電鉄」のデータセットを用いて仮説検定を実践し、その結果を考察する。考察内容に基づいて分析レポートを作成し、授業内容を定着させる</p> <p>第7回          総合演習：データ分析のまとめと実践応用          これまでに学んだデータ分析の基礎知識を総合的に振り返る。          データの視覚化を行い、その結果から推論を立て、データ分析を通じて仮説を検証する。分析結果は学生同士で共有し、AIバイアスやプライバシー侵害の事例などを踏まえ、議論する</p> <p>予習（120分）：これまでの講義内容を復習し、特に自分が興味を持った部分や理解が不十分だった部分について、追加で学習資料を調べる          復習（120分）：講義で行われた討論を振り返り、自分のデータ分析能力をどのように向上させるか、また、今後どのような分野でデータリテラシーを活用していきたいかについて計画を立てる</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	5. 現代のビジネスに必要な知識・スキルを身につけている 「情報デザイン」
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会におけるデータの重要性と活用例を理解し、データ解析が現代社会やビジネスにおいて果たす役割を具体例を通じて理解し、説明できる</li> <li>・コンピュータを活用した統計手法の基本を理解し、データの視覚化と分析ができるようになる</li> <li>・データの整理、可視化、分析を通じて、問題解決の糸口を見出し、主体的に思考し、結論を導き出せる</li> <li>・データ活用における倫理的課題（プライバシー保護、バイアスの認識、正確性保持）について考察できる</li> </ul>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	授業回で提出されたレポートについては、次の授業内で返却を行う。理解度テストについては、講義中にフィードバックする。授業内試験（学習到達度の確認テスト）の結果は、次の授業回で返却・解説を行う。
履修上の注意	欠席する場合は、欠席した授業の内容を確認・理解し、指示された課題があれば提出すること。
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習レポート：20点</li> <li>・グループプロジェクト（データ分析および発表）：30点</li> <li>・理解度テスト：20点</li> <li>・試験：30点</li> </ul> <p>合計100点満点</p>
教科書	「新課程 短期完成 データの分析ノート」著者名：数研出版編集部 編 ISBN：9784410224980 価格 ¥341
参考書・教材	授業時にプリントを配付する
備考	<p>講義科目（演習あり）          専門的な用語が多いため、分からないことがあれば、まずは各自で調べ、適宜、質問すること          基本的に、理解度テストを毎回実施する</p> <p>●TUC-2 AIデータサイエンス教育プログラム「AIデータサイエンスプログラム」対象科目</p>
教員との連絡方法	Mellyを利用します

【令和7（2025）年度】

講義科目名称： 情報リテラシー

授業コード： J12401 J12402

科目区分： [基礎教育科目]ビジネス／情報

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4半期	1年	1	必修
担当教員			
降旗 光太郎			
G (現代ビジネス学科) / J (経営学科)	L (基礎科目)	IF (情報)	101 (基礎・入門科目)
添付ファイル			

調査項目	<p>①DPに関連するジェネリックスキルについて（別紙「スキル別科目担当表」を参照いただき、該当するもの1つ（旧カリは2つ）にチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 主体性</li> <li><input type="checkbox"/> 思考力</li> <li><input type="checkbox"/> 発信力</li> <li><input type="checkbox"/> 学び続ける力【旧カリ：生涯学習力】</li> <li><input type="checkbox"/> 多様性【旧カリ：グローバルな視野】</li> <li><input type="checkbox"/> 【旧カリ：創造的思考力】</li> <li><input type="checkbox"/> 課題発見力【旧カリ：課題解決力】</li> <li><input type="checkbox"/> 協働力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> デジタルリテラシー</li> </ul> <p>②アクティブラーニングについて（該当するものがあれば、チェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL</li> <li><input type="checkbox"/> フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> グループディスカッション／ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 反転授業</li> </ul>
------	---

授業のねらい（概要）	<p>本科目は、情報化社会におけるAIを含む情報処理技術の基礎知識と応用能力の習得を目的とする。具体的には、AIやデータ分析の基本概念、Word、Excel、PowerPointの操作技術を学び、情報倫理や情報セキュリティの理解を深める。これにより、学生が職業生活や社会生活で必要な情報処理スキルを身につけ、実践的な課題に取り組む能力を養う</p>
------------	--

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：情報化社会の意義と情報処理技術の役割 本演習で学ぶ内容などを説明する。 情報化社会の特徴を理解し、情報技術が社会や経済に与える影響について学ぶ。AIの基本的な仕組みと応用例（データ駆動型社会：IoT、ビッグデータの活用例など）を具体的に解説する。また、生成AI（ChatGPT、大規模言語モデル等）などのAI最新技術の動向と、AI技術を活用した新しいビジネスモデル（シェアリングエコノミー、サブスクリプションモデル等）について紹介する。</p> <p>予習（120分）：講義のシラバスを読み、到達目標、使用テキスト、参考文献、評価方法及び評価基準、注意事項等を理解しておく 復習（120分）：講義で学んだ情報化社会の特徴と情報処理能力の重要性について、自分の言葉でまとめる。日常生活で遭遇する情報処理技術の例を挙げ、その重要性を考える</p> <p>第2回 情報倫理と情報セキュリティの重要性 情報の適切な管理と活用に必要な倫理的な視点を学ぶ。個人情報保護や情報セキュリティ（匿名加工情報やサイバーセキュリティ）の基本原則について、具体例を用いて考察する。</p> <p>予習（120分）：情報倫理に関する基本的な知識を調べる。情報セキュリティの基本とは何か、インターネットで調べてみる 復習（120分）：講義で扱った情報倫理とセキュリティの事例をもとに、自分の行動を振り返り、改善点を考える。個人情報の保護に関する自分なりの対策を考える</p> <p>第3回 グループプロジェクト：データ分析の基礎① - Excelによるデータ整理と可視化 Excelの関数など基本操作を復習し、csv形式などの表形式データを読み込み、AI（ChatGPTや他の生成AI）を用いたデータの整理やグラフ作成を通じて、情報を視覚的に表現する技術を学ぶ。</p> <p>予習（120分）：Excelの基本操作を復習する。AIとデータ分析の基本概念についてインターネットで調べる 復習（120分）：グループで行ったデータ分析の手順を復習し、理解を深める。分析したデータから得られた知見をまとめる</p> <p>第4回 グループプロジェクト：データ分析の基礎② - AIを活用した基本的なデータ分析 AIの初歩的な分析技術（自動要約など）を活用し、簡単なデータ解析を実施する。データ分析の結果を正確に解釈し、実社会での活用方法を考察する。</p> <p>予習（120分）：前回の演習内容を振り返り、次のステップに向けた準備をする。AIを利用したデータ分析の高度な例について復習し、理解を深める 復習（120分）：各回のプロジェクト活動で使用した分析手法と結果を整理する。分析プロセスで遭遇した問題とその解決策について考察する</p> <p>第5回 グループプロジェクト：情報倫理に基づくデータ活用の課題および生成AIの課題 AIを用いたデータ分析における倫理的課題（偏り、プライバシー、ハルシネーション、偽情報の</p>
------	---

	<p>拡散など)を議論し、データ活用における適切な判断基準を学ぶ。</p> <p>予習(120分):前回の演習内容を振り返り、次のステップに向けた準備をする。AIを利用したデータ分析の高度な例について復習し、理解を深める  復習(120分):各回のプロジェクト活動で使用した分析手法と結果を整理する。分析プロセスで遭遇した問題とその解決策について考察する  グループプロジェクト:プレゼンテーション技術と情報表現  PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成と効果的な情報表現方法を学ぶ。発表内容の論理性や視覚的な効果に重点を置き、ストーリーテリング技術を理解し、他者に伝わる表現方法を実践する。</p> <p>予習(120分):前回の演習内容を振り返り、次のステップに向けた準備をする。AIを利用したデータ分析の高度な例について復習し、理解を深める  復習(120分):次回のプレゼンテーションに備え、発表資料を完成させる  グループプロジェクト:分析結果の共有と議論  グループプロジェクトの成果を発表し、結果に基づいてデータ活用の意義や課題を議論する。</p> <p>予習(120分):プレゼンテーションに備え、発表資料を完成させる  復習(120分):自分たちのプレゼンテーションを振り返り、改善点や学びをまとめる。他のグループのプレゼンテーションから学んだ点を記録する。Wordを利用した個人レポートの作成を行う</p>
第6回	
第7回	
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	5. 現代のビジネスに必要な知識・スキルを身につけている 「情報デザイン」
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI、Word、Excel、PowerPointおよびクラウドベースツールの基本的な操作を習得し、これらを用いた情報処理とデータ分析ができるようになる</li> <li>・情報倫理とセキュリティの重要性を理解し、適切な情報管理と活用ができる</li> <li>・グループワークを通じて協働力を養い、効果的なプレゼンテーション技術を身につけ、情報技術を活用した課題解決能力を高め、活用することができる</li> </ul>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	講義回で提出されたレポートについては、次の講義内で返却を行う。理解度テストについては、講義中にフィードバックする。講義内試験(学習到達度の確認テスト)の結果は、次の講義回で返却・解説を行う。
履修上の注意	欠席する場合は、欠席した講義の内容を確認・理解し、指示された課題があれば提出すること。
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習レポート:20点</li> <li>・グループプロジェクト(データ分析および発表):30点</li> <li>・理解度テスト:20点</li> <li>・試験:30点</li> </ul> <p>合計100点満点</p>
教科書	なし
参考書・教材	「面倒なことはChatGPTにやらせよう」著者名:カレーちゃん, からあげ ISBN:9784065342909 価格 ¥2,750 その他、講義時にプリントを配付する。
備考	<p>演習科目(講義あり)  専門的な用語が多いため、分からないことがあれば、まずは各自で調べ、適宜、質問すること。  理解度テストを毎回実施する。</p> <p>●TUC-2 AIデータサイエンス教育プログラム「AIデータサイエンスプログラム」対象科目</p>
教員との連絡方法	Mellyを利用します

【令和7（2025）年度】

講義科目名称： ビジネスソフト活用

授業コード： J12501 J12502

科目区分： [基礎教育科目]ビジネス／情報

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4半期	1年	1	必修
担当教員			
三池 克明			
G (現代ビジネス学科) / J (経営学科)	L (基礎科目)	IF (情報)	102 (基礎・入門科目)
添付ファイル			

調査項目	<p>①DPに関連するジェネリックスキルについて（別紙「スキル別科目担当表」を参照いただき、該当するもの1つ（旧カリは2つ）にチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 主体性</li> <li><input type="checkbox"/> 思考力</li> <li><input type="checkbox"/> 発信力</li> <li><input type="checkbox"/> 学び続ける力【旧カリ：生涯学習力】</li> <li><input type="checkbox"/> 多様性【旧カリ：グローバルな視野】</li> <li><input type="checkbox"/> 【旧カリ：創造的思考力】</li> <li><input type="checkbox"/> 課題発見力【旧カリ：課題解決力】</li> <li><input type="checkbox"/> 協働力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> デジタルリテラシー</li> </ul> <p>②アクティブラーニングについて（該当するものがあれば、チェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PBL</li> <li><input type="checkbox"/> フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/> グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/> グループディスカッション／ディベート</li> <li><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 反転授業</li> </ul>
------	--

授業のねらい（概要）	<p>本科目は、ビジネスシーンにおける情報収集、データ分析、レポート作成、プレゼンテーションの基本スキルを学ぶことを目的とする。各ステップで使用するビジネスソフトの特徴と操作方法を体験的に学習し、実践的な課題を通じて適切なソフトの選択と活用能力を養う。特に、初学者が無理なく取り組める内容を重視し、演習を段階的に進めながら、実践的なスキルを身につける。</p>
------------	--

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、ビジネスソフトの概要と役割 本科目の概要、今後の展開について。 予習(125分)：ビジネスソフト、オフィスソフトについてWeb等で調べる。</p> <p>第2回 仮説を立て、その検証方法を考える ビジネス活動における仮説の立て方と検証の方法について。 復習(130分)：補習動画（①ファイル・フォルダについて、②タッチタイピングについて、③日本語入力について、④検索エンジン、⑤ダウンロードについて）を視聴する。授業で立てたあなたの仮説を必要に応じて見直し、検証に必要なデータを検討する。</p> <p>第3回 オープンデータサービスの利用方法 オープンデータサービスとは、e-Statの使い方、収集したデータの可視化について。 予習(130分)：e-Statなどオープンデータサービスについて調べる。</p> <p>第4回 仮説検証のためのデータを収集する e-Statから仮説検証に必要なデータを取得する方法について。 復習(130分)：e-Statの操作方法を再確認する。収集したデータを見直し、必要なら収集データの変更や追加の作業を行う。</p> <p>第5回 データの整理・可視化・分析 データの関係性を見るための散布図作成と近似線の追加方法、データの関係性（相関、因果）と解釈について。 予習(130分)：高校の数学で学んだ散布図、相関について復習する。</p> <p>第6回 データ分析・解釈の実践 収集したデータを分析・解釈する方法について。 復習(130分)：相関係数・決定係数と相関の強弱・正負について復習する。収集したデータを見直し、適切な数量で散布図作成等を済ませているか確認する。</p> <p>第7回 Wordを用いた構造的な文書作成 文書構造（章・節・項など）、構造ごとに書式を設定する方法について。 予習(130分)：収集・分析データからどのような結論が導けるか確認する。Wordのスタイル機能を調べる。</p> <p>第8回 Wordのグラフ作成機能を活用する レポートにグラフを作成・挿入する方法、仮説検証レポートの作成について。 復習(130分)：Wordのスタイル機能を確認し、Word(Excelではありません)のグラフ作成機能を調べる。</p> <p>第9回 仮説検証レポートの作成 分析結果を論理的にまとめる方法について。 予習(130分)：レポートに執筆する文章やグラフに必要なデータを用意する。</p> <p>第10回 仮説検証レポートの仕上げと提出 検証レポートを仕上げ提出する。</p>
------	---

	<p>復習(125分)：執筆したレポートを推敲・修正して提出する。次の機会に備えて学んだことを振り返る。</p> <p>第11回 スライドマスターを活用したプレゼンテーションソフト操作 Microsoft PowerPointのスライドマスター機能、検証報告プレゼンの作成について。</p> <p>第12回 予習(125分)：PowerPointの基本操作を復習する。 検証報告プレゼン作成のためのプレゼンテーションソフト操作 検証報告プレゼンをPowerPointで作成する方法について。</p> <p>第13回 復習(130分)：提示する図表等を用意する。 プレゼン動画を作成する 検証報告プレゼンを動画(MP4形式)に変換する方法について。</p> <p>第14回 予習(130分)：PowerPointに音声を取録する方法を調べる。 検証報告プレゼン動画の仕上げと提出 検証報告プレゼン動画の提出について。 復習(125分)：作成した動画を推敲・修正して提出する。次の機会に備えて学んだことを振り返る。</p>
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	5)現代のビジネスに必要な知識・スキルを身につけている
到達目標	(1)ビジネスソフト(Excel、Word、PowerPoint)の基本操作を習得し、情報収集・整理・分析・発表ができるようになる (2)データ分析の基礎を理解し、簡単なレポートやプレゼンテーションを作成する力を身につける
課題や小テスト等のフィードバックの方法	(1)全体的な注意点などは授業内で説明する。 (2)提出物については修正点・注意点などを記入のうえ返却する。
履修上の注意	(1)高校の数学(集合、命題と条件、データの分析)を復習しておくといいでしょう。 (2)タッチタイピング練習をしておくといいでしょう。一分あたり遅くても日本語20字、できれば50文字入力できるといいでしょう。 (3)内容を問わず積極的に質問した学生ほど良好な成績を修める傾向があります。疑問に思ったこと言語化し、質問する習慣を身に付けるといいでしょう。
成績評価の方法・基準	(1)データ収集・分析課題:30% (2)レポート作成課題:30% (3)プレゼン動画作成課題:30% (4)学修意欲:10%
教科書	書名：基礎からわかる情報リテラシー[改訂第5版] 著者名：奥村晴彦、森本尚之 出版社：技術評論社 価格：1,500円(税別)
参考書・教材	(1)Webサイト、三池研分室、 <a href="https://www.k-miike.net/">https://www.k-miike.net/</a> (2)YouTube、三池研分室チャンネル、 <a href="https://www.youtube.com/@bo_MiikeLab">https://www.youtube.com/@bo_MiikeLab</a> (3)その他、適宜紹介する。
備考	●TUC-2 AIデータサイエンス教育プログラム「AIデータサイエンスプログラム」対象科目
教員との連絡方法	mellyでお願いします。

短期大学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー (DP)		1. 主体性をもって責任ある行動ができる				2. 多様性を理解し、ホスピタリティ精神を身につけている				3. 答えのない問いに対して、多角的な視点を持って立ち向かう姿勢を身につけている			
学力の3要素		主体性・多様性・協働性				主体性・多様性・協働性				思考力・判断力・表現力			
カリキュラムポリシー (CP)		オートノミー				ホスピタリティ・コミュニティ				リベラルアーツ			
		オートノミー (自律・自主性)		実行力		セルフコントロール		相互理解力		課題発見力		思考力	
開講期間		半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期
2年	後期2	○ 卒業論文ゼミナール	2										
	後期1												
	前期2	○ 専門ゼミナール	2	商品開発 2 ビジネスアイデア開発 2 デジタルマーケティング 2		ホスピタリティ業界研究	2						
	前期1			English Presentation 2 プライダルプロデュース 1									
1年	後期2	○ プレゼミナール	1	マーケティングプロジェクト 2 環境プロジェクト 2		心理学	2	民族と宗教	2	自然科学基礎	2	哲学	1
	後期1				プレゼンテーション	1		○ ダイバーシティ	1			政治学	1
	前期2	○ オートノミープログラム 海外研修プレゼミ	1 1	○ スタディスキルゼミ II 0.5 ○ 社会人基礎力演習 1 ○ キャリアデザイン 2 ○ インターンシップ1 2 インターンシップ2 2 模擬プライダルプロジェクト 1				日本の歴史と文化 2 世界の歴史と文化 2		法学基礎	2	社会学	1
	前期1			○ スタディスキルゼミ I 0.5 認定産官学連携プロジェクト 1 認定海外研修1 1 認定海外研修2 1 認定海外研修3 1 認定海外研修4 1		○ ホスピタリティ論	1					○ 経済学	1
実践系の学び						基礎系の学び							

ディプロマポリシー (DP)		4. 互いを尊重し、協働する力を身につけている				5. 現代のビジネスに必要な知識・スキルを身につけている							
学力の3要素		主体性・多様性・協働性				知識・技能							
カリキュラムポリシー (CP)		ビジネス				ビジネス		情報デザイン		国際		キャリアサブリメント	
		協働力		コミュニケーション力		現代ビジネスに関する専門知識・技能 簿記・会計の知識		デジタルリテラシー		英語		現代ビジネスに関する専門知識・技能	
開講期間		半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期	半期	4半期
2年	後期2												
	後期1												
	前期2					○ ビジネスコンプライアンス 2 起業論 2		デジタルコンテンツ制作 2 ビジネスデータ分析 2		国際ビジネス 2 国際協力研究 2		医療経営 2 ホテルマネジメント 2	
	前期1					○ ライフマネープラン 1		デジタル技術ケーススタディ 2		ビジネスとダイバーシティ 2 インバウンド業界研究 1		プライダルマーケティング 2 ドクターラーク概論 2	
1年	後期2	コーチング	1	基礎英語 II 1 異文化コミュニケーション 2		商業簿記 II 2 ビジネス会計 2 マーケティング論 2 消費者行動論 2		Webデザイン 2 ビジネスソフト応用 1	動画コンテンツ制作 2 映像表現 1 AI入門 1 情報システム制作入門 1	Business English II 2		レセプト演習 2 ホテルビジネス実務論 II 2	
	後期1	チームビルディング	1		広告論 2 サービスビジネス 2 ファイナンシャルプランニング 2 eコマース 2			データベース入門 1 デジタルデザイン 2					
	前期2			基礎英語 I 1 韓国語 1 中国語 1	Clear Speech 1	○ 商業簿記 I 2 ○ ビジネス基礎 2 経営戦略論 2			○ データリテラシー 1 プログラミング基礎 1 デジタル画像編集 2	Business English I 2 TOEIC演習 2 Reading Comprehension 2		医療事務概論 2 医療事務演習 2 ホテルビジネス実務論 I 2	
	前期1			フランス語 1 スペイン語 1	コミュニケーション学入門 1	人的資源管理論 2 認定ビジネスコアスキル 1	ビジネスマナーとビジネス文書 1		○ 情報リテラシー 1 ○ ビジネスソフト活用 1	認定外国語検定 1 Japanese Culture 1		接客サービス演習 2 プライダル総論 2	
基礎系の学び						専門系の学び							

○…主要科目

# 高崎商科大学短期大学部カリキュラム検討委員会細則

## (目的)

第1条 この細則は、高崎商科大学短期大学部（以下「本学」という。）教授会規程第8条に基づき、全学的な視野や分野・学部等を超えた横断的な視点からのカリキュラム編成を推進するために、本学カリキュラム検討委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営その他必要な事項を定める。

## (協議事項)

第2条 本委員会は、次に事項について、協議する。

- (1) カリキュラムの策定や改定、検討に関すること
- (2) カリキュラム評価、効果測定、運営、改善等に関すること
- (3) カリキュラムマップ、スキル別科目担当表、カリキュラムツリー等に関すること
- (4) リベラルアーツ教育、STEAM教育、文理融合、教養教育等の検討に関すること
- (5) カリキュラムと課外プログラムとの連携、調整に関すること
- (6) その他カリキュラムに関すること

## (構成・任命)

第3条 本委員会の委員は、本学の教授・准教授・講師及び事務職員により構成するものとし、学長がこれを委嘱する。

## (任期)

第4条 委員の任期はその年度の末日までとする。

## (委員長)

第5条 本委員会に、委員長1名を置く。

2 委員長は学長が委嘱する。

3 本委員会に委員長を補佐するため、副委員長を置くことができる。

## (会議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長は委員長をもって充てる。

2 本委員会は、2か月に1回の定例会議を開くものとする。ただし、必要ある場合は、臨時に開くことができる。

3 本委員会は、高崎商科大学カリキュラム検討委員会と合同で行うことがある。

## (報告)

第7条 本委員会の協議の内容については、委員長から文書をもって学長に報告する。

## (改廃)

第8条 本委員会細則の改廃は教授会の議を経た後、学長の承認を必要とする。

## (庶務)

第9条 本委員会の庶務は事務局が処理するものとする。

## 附 則

- 1 この細則は、令和3年9月1日から施行する

# 高崎商科大学短期大学部教務委員会細則

## (目的)

第1条 この細則は、高崎商科大学短期大学部（以下「本学」という。）教授会規程第9条に基づき、教務関係業務を適正かつ円滑ならしめるために、本学教務委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営その他必要な事項を定める。

## (協議事項)

第2条 本委員会は、次の事項について協議する。

- (1) 教育課程の編成と運用に関する事
- (2) 教養教育の運営基本方針、企画、改善等に関する事
- (3) 履修及び授業運営に関する事
- (4) 試験、成績に関する事
- (5) 単位認定及び卒業判定に関する事
- (6) オリエンテーション計画に関する事
- (7) 授業評価システムと授業方法の改善に関する事
- (8) その他教務に関する事

## (構成・任命)

第3条 本委員会の委員は、本学の教授・准教授・講師及び事務職員により構成するものとし、学長がこれを委嘱する。

## (任期)

第4条 委員の任期はその年度の末日までとする。

## (委員長)

第5条 本委員会に、委員長1名を置く。

- 2 委員長は学長が委嘱する。
- 3 本委員会に委員長を補佐するため、副委員長を置くことができる。

## (会議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長は委員長をもって充てる。

- 2 本委員会は、毎月1回の定例会議を開くものとする。ただし、必要ある場合は、臨時に開くことができる。
- 3 本委員会は、高崎商科大学教務委員会と合同で行うことがある。

## (報告)

第7条 本委員会の協議の内容については、委員長から文書をもって学長に報告する。

## (改廃)

第8条 本委員会細則の改廃は教授会の議を経た後、学長の承認を必要とする。

## (庶務)

第9条 本委員会の庶務は事務局が処理するものとする。

附 則

1 本細則は、昭和63年4月1日から施行する。

平成 8年5月8日一部改訂実施する。

平成12年4月1日一部改訂実施する。

平成13年4月1日一部改訂実施する。

平成14年4月1日一部改訂実施する。

平成18年4月1日一部改訂実施する。

平成19年4月1日一部改訂実施する。

平成22年4月1日一部改訂実施する。

平成26年8月1日一部改定実施する。

大学等名	高崎商科大学短期大学部	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	TUC <sub>2</sub> AI・データサイエンス教育プログラム	申請年度	令和7年度

## 取組概要

# TUC<sub>2</sub> AI・データサイエンス教育プログラム

### 【 目的 】

本プログラムは、社会の変化を理解し、データやAIに関する基礎的知識と基本的スキルを身に付けることで、Society5.0社会のビジネス現場において、AI関連の知識やICTスキルを活用し、データに根差したビジネスや、デジタル環境でのコミュニケーション能力など、広く社会に価値を生み出せる人材の育成を目的としている。

### 【 プログラムの概要 】

全学生を対象とするプログラムであり、必修プログラムは、全ての学生が履修する。また、1年次前期からの配当科目にて、2年間での知識・スキルの修得がスムーズにいくよう工夫されている。さらにプログラムは2段階のレベルで構成されており、必修プログラムでは、ビジネスを想定した社会の実データを題材として学修を行い、データの分析や得られた知見をビジネス志向のPBLに活用する。また、上位の選択プログラムは、Adobe Creative Cloudを利用した、知識・スキルの実践的な学びとして、コンテンツ制作の科目を中心に、主にデジタル環境におけるコミュニケーション能力に活きる内容となっている。

### AIデータサイエンスプログラム

必修	データリテラシー【1単位】	導入	基礎	AIデータサイエンスプログラム 修了証明発行  【修了条件】 左記3科目(3単位)を全て修得
	情報リテラシー【1単位】	導入	基礎 心得	
	ビジネスソフト活用【1単位】	導入		

### 【 プログラムの内容・身に付けられる能力 】

#### AIデータサイエンスプログラム

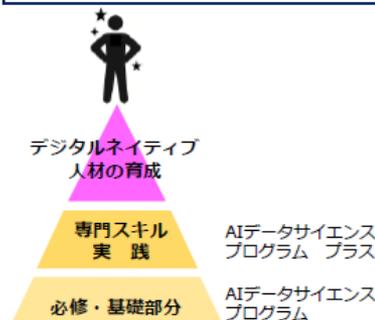
- ・ AIの発達で社会や人々の生活がどのように変化しているかを理解する
- ・ 社会や人々の生活においてデータがどのように活用されているか理解する
- ・ 様々な業界におけるデータの活用事例を知る
- ・ セキュリティや倫理、コンプライアンスなどを理解する
- ・ データの活用を行うための基本的スキルを身に付ける

#### AIデータサイエンスプログラム プラス

- ・ 画像や動画の基本を理解し、デジタル表現力を身に付ける
- ・ ICTを実社会で活用するスキルを身に付ける
- ・ 社会のニーズに即したコンテンツ制作について理解する

### AIデータサイエンスプログラム プラス

選択	プログラミング基礎【1単位】	AIデータサイエンスプログラム プラス 修了証明発行  【修了条件】 上記必修科目に加え、 左記「選択」から5単位以上を修得し、 合計8単位以上を修得
	デジタル画像編集 (Photoshop)【2単位】	
	デジタルデザイン (illustrator)【2単位】	
	動画コンテンツ制作 (Premiere)【2単位】	
	Webデザイン【2単位】	



### 【プログラムの特徴】

必修プログラムに配置されている科目は、正課程で全学生の必修科目として設置されており、本プログラムを全学生が修得する環境をつくっている。学修内容も基礎→専門・実践と体系的に構築されている。また、プログラム修了者には修了証を交付し、就職活動への活用も視野に入れている。